

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月9日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401343		
法人名	医療法人 有心会		
事業所名	グループホーム 茜雲		
所在地	〒859-2202 長崎県南島原市有家町山川西寺ノ前1-2 (電話)0957-82-6220 (FAX)0957-82-6221		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年2月3日	評価確定日	平成21年2月24日

【情報提供票より】(H20年12月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	2	利用定員数計	18 人
ユニットA 職員数	13 人	常勤 6 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	5.6 人
ユニットB 職員数	13 人	常勤 6 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	4.8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての 階 ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(日額)	400円/日		
その他の経費	理美容代・オムツ代・受診代実費、テレビ使用料・電気アンカ使用料一日50円、電気毛布使用料一日100円		
敷金	有()円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 833 円		

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	4 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 67 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田循環器科内科・小嶺歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

南島原市有家町の商店街沿いにあるグループホーム茜雲は母体に医療機関をもち、開設当初からターミナルケアを行うなど医療との密な連携を行い今年で7年目を迎える。ホーム前の道路は小学生の通学路であり、ホーム沿いの歩道は保育園児の散歩コースで、地域住民も買い物のためよく歩いて通られ、日常的な交流がある。玄関を入ると、事務所を中心に左右にユニットが分かれ、開放感溢れるホールは広範囲に入居者の所在が確認できる。施設長、管理者をはじめ、職員全員が明るく笑顔が溢れ、それがそのまま入居者に自然に伝わり、まるで家族のような温かい団欒の場を感じられた。今後も入居者一人ひとりのニーズにあった個別支援をさらに充実させていき、人と人のつながりを大切にしていきたいと考えられ、現状に留まることなく常に前向きでさらなるレベルアップが期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価を受けて、早期に話し合い、検討され改善計画シートを作成された。介護プランに即した記録に関しては、毎月初めに職員全員が参加するケア会議を開催し、その中でモニタリング、評価・見直し、プラン作成を行っている。日々の記録にはプランの短期目標を記載できる欄を設け常にプランに反映した記録になっている。災害対策に関しては、さまざまな災害を想定した訓練を行い、備蓄・緊急持ち出し品が整備がされ昨年度の改善目標は全て達成できている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票を職員に渡し、全員で話し合い項目に書き込んでもらい、管理者がまとめを行った。できあがった自己評価票をその後再度職員に確認してもらい意見を出し合われた。評価のプロセスを通じてグループホームのケアの原点に戻る事ができ、職員の育成にも繋がっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、同法人内のグループホームと合同で、地域のホールや会館を利用して2ヶ月に1回の頻度で開催されている。議題は、入居者の状態・様子、行事・活動内容、外部評価の結果報告など幅広く、参加者(施設長、管理者、市町村の職員、家族代表者など)からの意見も多く、充実したものになっている。最近では、ホームでの消防訓練の様子をみてもらい、参加者も共に消防署からの指導を受けることもできた。今後はレクリエーションなどにも参加してもらい、さらに地域に開かれたホームとなる事が期待できる。また会議の議事録はホームで掲示も行っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見を真摯に受け止め、運営に反映させたいという前向きな姿勢がある。意見箱を設置したり、毎月発行の広報誌で意見・要望を募ったり、面会時にコミュニケーションを密にとるなど家族の意見を出しやすい機会を設けている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との自然な日常的な交流がある。ホームのそばを通られる地域住民の方、園児など日頃から挨拶を交わす顔馴染みの関係で、園児は散歩中に保育士と共にホームで1時間程度過ごされることもある。また、福祉体験で小・中・高校生の訪問も多く、体験学習が終了した後、訪問があるなど途切れない関係がある。入居者も子供達や近所の方の訪問は大変喜ばれている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者の個性を尊重し、QOLを高めることにより生き甲斐を持って明るい生活をしていただく」という事業所独自の理念は、地域で暮らし地域で支え合いながら、一人ひとりに合った個別ケアを大切にしていって思いが込められている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて、朝夕2回に毎日カンファレンスを行い、わずかな状態変化も共有し、ハートでケアをすることを心がけている。理念は、介護目標「その人のペースに合わせてゆったり」と合わせて、事務所に掲示、広報誌にも掲載され周知にも繋げている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流はたいへん盛んである。ホームそばの道路を歩いて通られる方が多く、日頃からゆっくり挨拶を交わす顔馴染みの関係ができています。近隣に保育園や小学校があり、園児がホームの中で散歩途中に1時間程度過ごすこともある。その他にも福祉体験やボランティア、ホーム行事での交流など実にさまざまな地域との触れ合いがある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の過程を日頃のケアを振り返る良い機会として捉え、全職員で自己評価に取組まれた。評価を通し、原点に戻ることができ新たな目標ができた、職員の育成にも繋がったとの意見があり積極的に取り組んでいる姿勢が窺える。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、同法人内のグループホームと合同で開催される運営推進会議は、町内のホールや会館を利用して行われている。入居者の状態報告や行事報告だけに留まらず、参加メンバーからの意見もあり有意義な内容となっている。昨年11月にはホーム内での消防訓練の様子を見学してもらい、さらにホームを知ってもらえる良い機会となった。		

グループホーム 茜雲

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員とは気軽に声をかけ合う関係であり、市の方から市民文化祭出品(書道・貼り絵など)の声かけがあったり、町内の民生委員20数名がホームに見学に来られるなど、連携が図られている。また、市の公共施設である図書館を入居者と共に利用することもある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回発行される広報誌には入居者一人ひとりのホームでの様子がカラー写真付きで掲載され、一言コメントとして職員がその月の状況を空欄に書くようにしている。基本的に面会時に、職員が丁寧に様子を話しながら手渡されている。また「ふれあいノート」には、1ヶ月の状況を約1ページに職員が手書きで綴り、敬老会など家族が集まったときなどに拝見できるようになっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	広報誌にて意見・要望を募ったり、意見箱を設置するなど出しやすい体制が整備されている。実際は直接要望を言われることが多いが、それを真摯に受け止め、運営に反映させ、さらに家族の方に満足していただきたいという思いがある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に法人内、ユニット間での職員の異動はなく固定している。離職率も低く、開設当初からの職員も多い。雇用条件が異なっても職員は皆平等と捉え、仕事には責任をもってもらう配慮がある。職員もそれに応え、強いチームワークが確立しており、まさに理想のホームと感じられた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体が医療機関であり、院内での勉強会へも参加しているが、今年度より、南島原市ケア研究会に加入しさらに研修の場が増えた。職員も自己研鑽に努め、介護福祉士やケアマネジャーの資格を取得するなどスキルアップへ向けて学ぶ姿勢がある。研修後は、参加できなかった職員のために、翌日には報告し共有もはかられている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南島原市ケア研究会、島原半島連絡協議会に加入していることから、研修の場での情報交換など同業者との交流がある。また、同じ市内のグループホームを見学したこともあり、今後も交流を深めてお互いに切磋琢磨し、さらに向上していきたいと考えられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅、病院など入居前の環境はそれぞれ異なるが、入居前に入院中でも見学してホームの様子を知ってもらったり、看護師との密な情報交換などで少しずつ馴染める工夫がある。職員は入居予定者の自宅を必ず訪問し、今までの環境を知り、馴染みの物や自宅の環境を把握するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は「人生の先輩」であり、日々の生活の中で、郷土料理、育児、季節折々の過ごし方、昔の慣わしなど実にさまざまなことを学ぶことが多い。食後しばらくは、慌てて食器を片付ける職員の姿はなく、のんびりとコタツに入居者と入り過ごす風景は、家族を思わせる自然な雰囲気であった。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の十分な把握のため、入居までに家族や親族の協力を得て出生からのバックグラウンドの記入をお願いしている。情報は入居してから随時、追加記入していくことで、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書作成前に、本人・家族にニーズを確認し、毎月1回の全職員が参加するケア会議で意見を出し合い作成されている。介護目標も一人ひとりの意向・身体面・精神面に合わせた個別の計画になっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケア会議の中で、現時点でのサービスとのずれはないかを把握・検討するためにモニタリングを細かく行っているほか、日々の個別記録の中でも、プランの目標を記載しており、日頃からプランを意識した記録がとられている。評価は、基本的に6ヶ月毎に行っているが、必要と判断した場合はその都度実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が医療機関であり、24時間体制での医療連携がはかられている。ホームにしながらの医療処置(点滴、酸素療法、膀胱留置カテーテルなど)が可能であり、看護師は常時配置されていないが、連絡が密にとられ、訪問も必要時には早急に可能である。また、他科受診(精神科・眼科等)の通院介助も可能であり、その日の予定に合わせて職員の配置も不足することがないようにシフト調整している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を大切に、納得した受診ができる配慮がある。家族の希望に応じて変更することもあり、柔軟に対応可能であることが窺える。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ここ数年、看取りの経験はないが、今までに看取りの経験がある。ターミナルケアは、本人や家族の意向に沿うようにし、なるべく家族の協力を得るようにしている。母体の医療機関の医師や看護師も協力的でチームでのケアが行われている。また、職員の能力アップのためにも、診療所での看護会議に参加し医療処置について学んだり、看護師がホームに指導に来られることもある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ポータブルトイレの居室での位置、臭いへの配慮など細かな気配りがある。家族と入居者の面会時のコミュニケーションも大事にしており、会話のタイミングに気をつけ、さりげなく椅子を準備する対応がある。また、部屋の中で気兼ねなく電話ができるようにコードレス電話の使用も可能などプライバシーを大切にしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃の入居者との会話や入居者同士の会話の中でその日に本人がしたいこと、思っている事の把握に努めている。会話の中で「お酒が飲みたい」と言われたら、一緒に買い物に行く柔軟な対応もある。また、カラオケ、手芸、折り紙などそれぞれが趣味を持たれ、職員が学ぶこともある。		

グループホーム 茜雲

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問してまず目に入ったのは、入居者が自然に台所に立ち、昼食の準備を職員とする姿であった。一日に約40品目の食材を使用した食事は、季節の野菜や果物を豊富に取り入れ色彩豊かである。入居者と職員が同じテーブルを囲み、同じ物を食べ、楽しくお互いが語らいながらの食事風景はなんとも和やかだった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴回数は夏場で週に3回、冬場で週に2回だが、夜間帯でも保清が必要であればシャワー浴をするなど臨機応変に対応している。オムツ使用の入居者には交換する度にホットタオルで部分清拭され入居者にも好評である。入浴拒否の方に対しては、タイミングを見計らったり、声かけする職員を変えてみるなど工夫しながら清潔を保てるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれが役割をもつ大切さを認識し、食器洗い、食材の下ごしらえ、掃除、裁縫など本人の状態・ペースに合わせて支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	開設当初に比べて入居者全員での外出は少なくなったが、遠出が難しい方でもホームの駐車場で日光浴を兼ねてお茶を飲んだり日常的にホームから外出する支援がある。入居者の希望に応じて職員と1時間近く散歩したり、ホーム近辺を散歩される方など個別に対応されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵の施錠は行っておらず、外出傾向のある入居者に対しては、職員の見守りを特に重視している。今までに一人でホームの外に出られることはあったが、近所の方に教えてもらうなど地域での見守りもある。また入居して3ヶ月くらいの期間は特に行動パターンの把握に努めるようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の立会いの下で火災・地震・水害などさまざまな災害を想定した訓練を行っている。訓練時は自動通報装置の作動確認(職員全員に自宅や携帯電話へ連絡がある)も行い徹底している。持ち出し品としては入居者の基本情報(住所・連絡先・既往歴・内服状況などが記載)と救急用品・水の非常物品も備えている。		

グループホーム 茜雲

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設長が栄養士の資格を持ち、献立を作成している。習慣、嚥下状態、食事制限に合わせて対応しており、ホームの食事を摂るようになり、体調が良くなった入居者も多い。水分摂取に関しては、1日に1,200～1,500mlを目安とし、10時、15時、入浴後に勤めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に入ると、事務所を中心に2ユニットがそれぞれ左右に対称的に作られており、見守りしやすい造りになっている。開放感溢れたりリビングは車椅子等でもゆったりできるスペースで窓も大きく十分な光が射し込む。廊下など至るところに季節の花が飾られ、ホームにいながらも季節を感じることができる工夫がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望や状態に応じて和室、洋室が選択可能である。ベッドは貸し出し可能で、トイレ付きの部屋も各ユニットで3箇所設けている。居室は入居者それぞれの使い慣れた椅子やテレビ、タンス、また位牌や写真なども持ち込まれている。職員は入居前に自宅訪問し、今までの環境を知り、できるだけ環境を変えない支援をしている。		